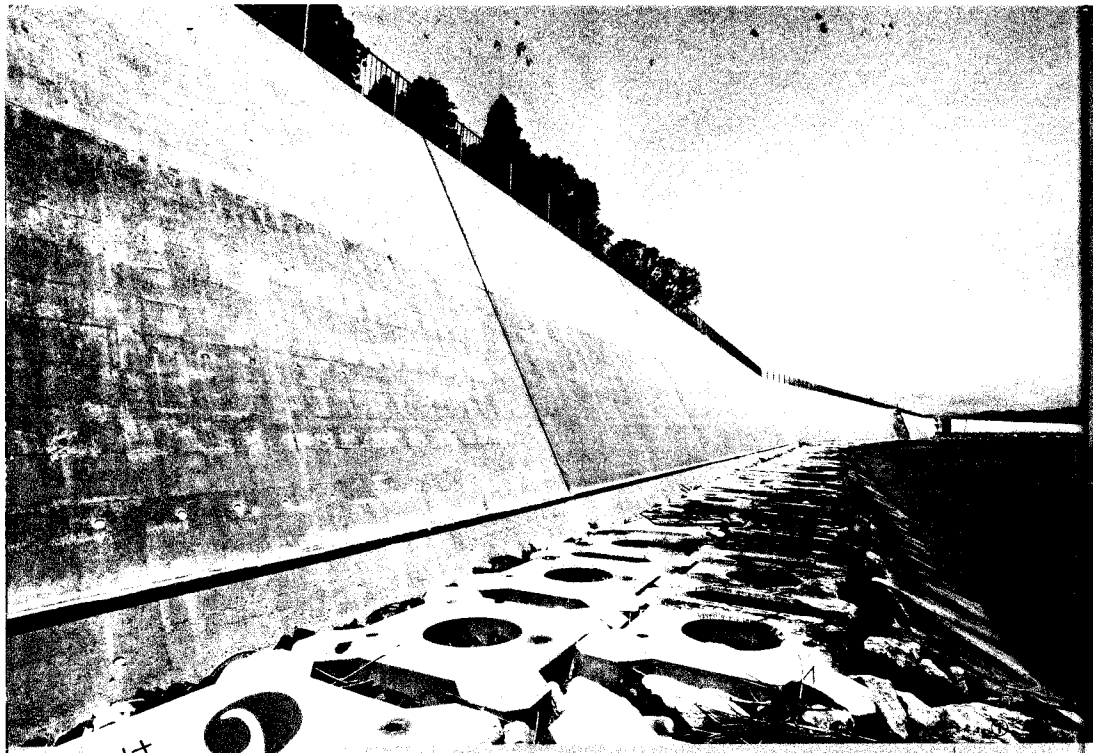


これは「復興」ですか？

第41回―白砂青松が消えていく

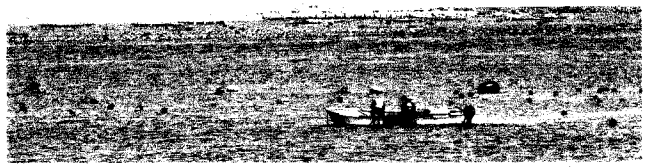
豊田直巳　とよだ なおみ　フォトジャーナリスト

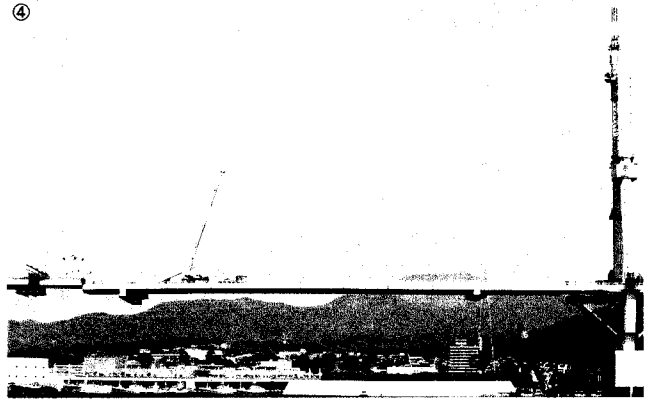
日本人が思う，日本の「美しい」海岸線のイメージ（あくまでイメージだが）を象徴する白砂青松という言葉．それが死語となりつつあることを実感する場所が，震災から10年目となる東日本大震災の津波の被災地に無数にある．

津波被害の大きかった岩手，宮城，福島3県の海岸線は約1700 km．そのうち約400 kmに「海岸堤防が必要」と言う国交省は，今年度中に堤防の完成を目指している．3県の中で海岸線，約829 kmのうち，約240 kmをコンクリートで覆おうとしている宮城県の沿岸を走った．

福島県の道路で放射能汚染土壌を運ぶダンプカーが数珠つなぎになった渋滞に巻き込まれるのと同じように，宮城県の沿岸部の道路では，港湾，砂浜などの埋め立てや堤防建設用土壌を運搬するダンプカーとひっきりなしに行き違う．一方で，海岸線に沿う道路から海が望めるのはまれだ．

気仙沼市には環境省の「快水浴場百選」に選ばれている海水浴場が4カ所，そのうちの2カ所は，（社）日本の松の緑を守る会の「日本の白砂青松100選」にも選定されている．だがどこに「白砂青松」があるのか，目を凝らしても，よくわからない．海岸線に白く輝くのは真新しいコンクリートばかりだった．





① 昨年12月に「復旧」工事が終了した気仙沼市の最知から小々汐地区海岸の堤防．高さ10.5 m，全長731 mで，「数十年から百数十年に一度程度の頻度の高い津波」に対応する高さの堤防」と言う．しかし，「東北地方太平洋沖地震（震源域は日本海溝）をもたらしたM9.0のような，最大規模の津波は必ず発生した場合に，津波が堤防を越える恐れがあります」とも坂上プレートには記載されていた．

② 写真①の対岸の気仙沼大島から，上記の最知地区方面を望む．気仙沼湾を取り囲むような防潮堤の白い直線がひときわ目立つ．

③「三陸わかめ」として知られる養殖わかめの収穫をする漁船たちの向こうにも，海に並ぶ軽トラックの何倍もの高さの防潮堤が白く目対しを繰り返していた．

④ 接続工事が完了目前（6月21日完了）の気仙沼湾横断橋．東日本大震災の「復興道路」として建設が進む359 kmの「三陸沿岸道路」の一部．その向こうに気仙沼市魚市場を取り囲むような巨大な防潮堤が見える．

（撮影はすべて2020年6月1日）